

2014年2月23日

ロシア文学会 御中

山口 涼子

報告記

私は第三回全ロシアフォークロア学者大会に出席しましたので下記の通り報告致します。

記

1. 日時：2014年2月3日～2月7日
2. 場所：モスクワ郊外の療養所施設ヴォロノヴォ
3. 参加者：ロシア国内外のフォークロア学者約500名
4. 会議：朝と晩の二部構成の他に、夕食後は映画、音楽、造形美術の展示、マスタークラスの講演等。
5. 概要：
第一日目、
朝6時よりモスクワ市内のフォークロアセンター本部でレジストラーツィヤ開始。その後、10時より本の展示即売会。11時、開会式。政府高官の挨拶と関係者のスピーチ。12時、様々な民族アンサンブルの歌や楽器演奏、舞踊の鑑賞。13時、立食パーティー。ヴォロノヴォへバスの送迎。



写真は、民族アンサンブルの公演

第二日目、

夜の部の会議での発表を控えていたので、午前中は発表の練習。15時から19時まで、「物語の伝統の研究に関する諸問題と今後の展望」というセッション（10名エントリー、内3名が論文のみ）で、7名が発表し、質疑応答。報告者の発表は7番目。題目は「**«Подмененная невеста» и «жених-еретик» : связь между «смертью невесты» в причитаниях и «смертью жениха» в сказках на Русском Севере**」。

第三日目、

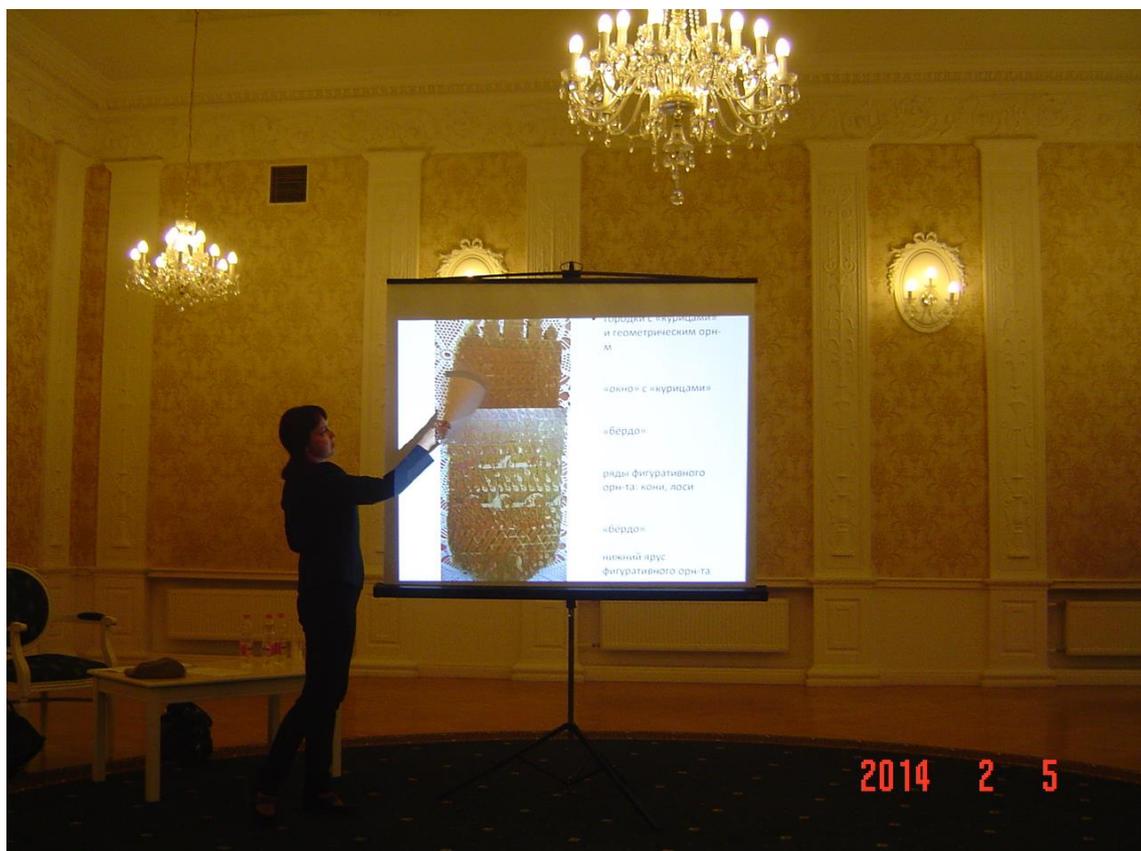
興味のある発表を聴くため、会議室を回る。報告者は **Секция №28** の **«Поведенческие нормативы и народная этика»** の発表を聴講する。会議室は宿泊施設の中と、庭園の中の建物に分かれており、計10室あった。

第四日目、

同上。報告者は **Секция №6** の **«Эпическое наследие России»** と、 **Секция №21** の **«Изучение механизмов формирования локальных традиций и культур в XXI веке»** (ラウンドテーブル) の報告を聴講する。夜にパーティーが開かれた。

第五日目、

朝の部の会議が終わると、閉会式。



写真は、第二棟ホール二階 報告者が聴講した発表の様子

6. 印象：

フォークロアと一言で言っても、無数のジャンルがあり、それを短期間で経験することができた意義は大きいと思う。参加者は皆、友好的で誰とでも親しくなれる雰囲気であった。発表の中で、質疑応答も活発で、若い研究者の活躍が目立った。日本では大家と呼ばれている先生も気軽に質問に答えてくれ、助言を与えてくれたことは報告者にとって感動する出来事であった。フィールドワークの報告は少なかったように思われる。むしろ、文献にあたる発表が多く、それが参加者の共有の知識としてお互いの理解に役立った。また、基礎研究の大切さを実感する機会にもなった。今回は造形美術の発表の数が多く、報告のテーマにも時代の流れがあることを感じた。日本ではフォークロアの研究は自分の専門領域に限定されがちであるが、こちらでは、若い研究者も自分の研究以外のテーマについて十分な知識があり、様々な研究に対する彼らの積極的なアプローチは良い刺激になった。

報告者は幸運にも、同じ儀礼歌を専門に研究している Т.В. Кирюшина 先生と宿舎の相部屋であった。先生とは、会議以外でも個人的に研究について語り合うことができた。フォークロアで音楽を専門にすると、どうしても譜面を必要だとする考えが日本では珍しくない。しかし、音楽学を専門とする先生は、「研究者個人によって研究方法は異なるのだから、あなたはあなたの道を行けば良い」と仰ってくださった。

また、報告者は、以前より著書を拝読し、尊敬していた А.К. Байбурын 先生とも報告以外に自分の研究について質問させて頂く機会があった。先生のご意見は短く、その鋭いお答えに大変緊張したのだが、その後、「質問があればいつでもたずねていらっしやい」と声を掛けてくださり、「あなたの研究を読みましょう」と約束してくださった。実際、会議が終わって、帰国してから論文をお送りすると、丁寧にお返事くださり、素晴らしい助言まで頂けた。

報告者の発表については、全くの予想外の展開であった。この日、幾人か報告者のフィールドの仲間が応援に会場に到着するはずであったが、3名の発表者の不参加により、順番が繰り上がって7番目の発表となった。全くの独りのなか、報告者が論文を読みあげると、用紙の2枚目に移る段階で司会者たちが決して小さくない声で議論を始めた。一瞬、失敗をしてしまったのかと動揺が走った。額から汗が落ちるほどの緊張の中、論文を読み終えた途端、待っていたのは予想もしない祝福の言葉であった。「素晴らしいロシア語と素晴らしい発表をありがとう」と賛辞を頂き、頭の中が真っ白になってしまった。この後、遅れて到着した仲間にも「よくやった」と褒められ、この発表に費やした3年という月日が無駄ではなかったことを感じた一瞬であった。

ロシアフォークロア学会は様々な土地の様々な民族の融合であり、この会議の価値をより高めているのは、会議が終わってからも人的交流が続いていることである。

ロシア文学会のみなさまへ

報告者は無所属で研究を続けているため、国際会議に参加することは、経済的にも心理的にも高いハードルでしたが、この度、ロシア文学会国際交流助成という制度で、支援くださることは、研究の大きな励みになりました。これからも、会議で培った研究者の輪を大切に、ロシア文学会にも貢献できる研究を行えるように励みたいと思います。ありがとうございました。



写真は、会議の参加者の集合写真

以上